

夜回り

# 山田先生

西陵商ラグビー部元監督



▶18◀

## 「天国からの応援」に応え準決勝に快勝



▼山田耕二(やまだ・こうじ) 名古屋市中区生まれの73歳。元ラグビー日本代表。西陵商(現西陵)監督として1997年、全国高校大会で愛知県勢初優勝に導く。豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県弥富市で老人ホームの理事長を務める。

大会中に生徒の友人が事故で亡くなった。長い教師生活の中でも初めてだった。彼らにどう言葉をかけてやればいいのか、分からなかった。それでも、なんとかして生徒たちに前を向かせなければならぬ。考えを巡らせ、口を開いた。

「勝ち進むことが、亡くな

った彼への一番の供養になるんじゃないか。泣きながら名古屋に帰るのは申し訳ない。最後まで勝ち進んで、ご霊前にいい報告ができるように頑張ろう」。言葉を選び、搾り出した。

生徒たちも何とか気持ちを整理し、次第に落ち着きを取り戻してくれた。2日後の準

決勝。今度は通称「西の横綱」、またしても優勝候補の大阪・大工大高(現常翔学園高)が相手だった。天国で見守ってくれる味方の応援に励えよう、と生徒たちは必死に食らいついた。66-29で快勝し、初の決勝進出をつかみ取った。

迎えた1997年1月7日。決勝当日、私はとても穏やかな気持ちだった。出場チーム中最も体格が小さく、「軽量商」と冷やかされた。そんなチームが優勝候補を次々と倒し、決勝に進んだ。それだけで十分に快挙だ。勝っても負けても、彼らを最大限に褒めたたえよう、と決めていた。

# 友人の死乗り越え初の「花園」決勝へ

生徒たちは違った。その目には、優勝しか見えていなかった。試合前、ロッカーチームでのミーティング。主将の原田陽一郎が、前年の準々決勝で日川高に1点差で敗れたことに触れ、こう宣言した。「俺たちは去年、この花園に1点の忘れ物をした。きょうはそれを取り返しに行く。相手より1点でも多く取って、絶対勝つんだ」

彼らは闘志をめらめらと燃やし、むき出しにしてグラウンドに向かった。ホイッスルが鳴り響き、試合は始まった。